

「訪問看護ステーション」との交流会を再開しました。

当院看護部では、入院患者さんが在宅復帰される際、スムーズに地域の医療者へバトンタッチできるよう、日頃から顔の見える関係性の構築に努めています。「訪問看護ステーション」との交流会は、そんな試みのひとつ。

新型コロナウイルス流行後は自粛を余儀なくされておりましたが、今年3月10日、当院講堂にて3年ぶりに開催ができました。待ちに待ったこの機会に、ご参加くださった地域の訪問看護師さんは23名。ACP(人生会議)についての講演会やグループワーク(事例共有)を通して、とても有意義な時間を過ごすことができました。ご参加いただいたみなさまに、心より感謝申し上げます。今後もこのような交流を通して信頼関係を育み、地域医療に貢献してまいります。



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

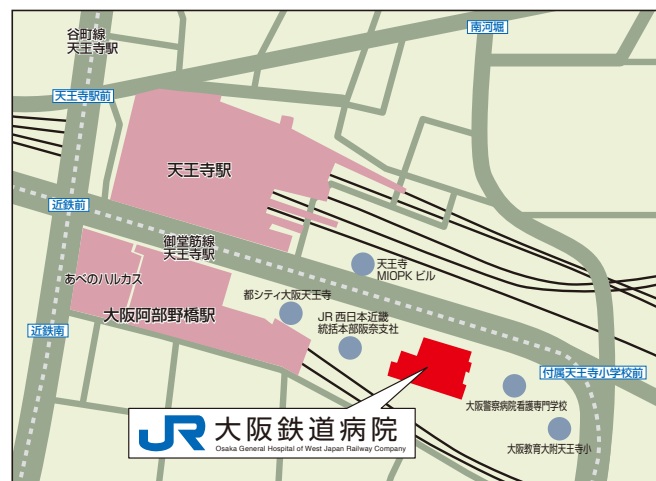
【基本方針】

安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間/午前8時30分～午前11時00分 診療開始/午前9時00分～
休診日/土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



メディカル

よりよい医療の始発駅

ぽっぽ vol.19
2023.6

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

診療科 UPDATE 人間ドック

ドクターインタビュー/検診担当部長 伊藤 正

新任医師のご紹介

X線血管撮影装置新機種のご紹介

栄養室コラム

Radiation Station

ぽっぽニュース

ご挨拶

新緑が美しい季節となりました。地域の皆様には日頃から当院に、ご指導、ご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。
本日5月8日から、新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に引き下げられました。2020年1月に国内で初めて感染者が確認されてから3年4か月を経て、コロナ対応は平時の体制へと移行します。政府や自治体からの様々な要請に基づき行動制限はなくなり、療養や感染防止の在り方は基本的に個人の判断に委ねられます。

ですが、病原体としての新型コロナウイルスの性質が大きく変わるわけではありません。医療機関での感染対策の緩和はクラスター発生などの誘因となり、通常診療にも大きな影響が出ますため、院内での感染対策の基本は従来と変わりません。特に無症状の感染者がいることを前提として、院内では可能な限り医療従事者および患者さんの両者が常時マスクを着用することが重要です。引き続きご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、当院は昨年度、地域の皆様を対象とした一般診療開始後40周年(病院創立107周年)の節目を無事に迎えることができました。コロナ患者受入れ重点医療機関としての役割を担いつつ、一部祝日診療の導入や二次救急告示日の拡大等通常診療の強化にも新たに取組みました。本年度は「BEYOND the CORONA(コロナの先へ)」を職員一同の合言葉に、更なる病院機能強化と地域連携の推進に努めて参る所存です。高度急性期/急性期医療から回復期リハビリ/緩和ケアまで、切れ目のない医療を提供できる「地域と時代に求められる多機能型急性期病院」の理想形を引き続き目指して参りますので、地域の皆様におかれましては、当院に対しますご指導、ご鞭撻としてご支援を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

2023年(令和5年)5月8日

西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院

院長 上田祐二

人間ドック



健康な方も、疾患のある方も、定期的な健康診断を。
今回は当院で実施している健康診断より、
日帰りドックを中心にご紹介いたします。

ドクターインタビュー

検診担当部長 **伊藤 正**

(いとう ただし)

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医・指導医・西部会評議員、人間ドック健診情報管理指導士、労働衛生コンサルタント、日本プライマリケア連合学会認定医・代議員、日本臨床検査医学会臨床検査管理医

大阪鉄道病院の人間ドックのあゆみ

大阪鉄道病院で人間ドックが開設されたのは、1981（昭和 56）年のことです。当初は泊まりドックのみでしたが、1992（平成 4）年に日帰りドックを併設、2003（平成 15）年の泊まりドックの廃止にともない日帰りのみになったという経緯があり、現在に至ります。

JR 西日本の企業立病院であるため、受検者さんの多くは JR 社員及び関係者ですが、もちろん広く一般の方にもご利用いただけます。一般の方では比較的高齢の方の割合が高く、当院に通院されている方もたくさん受検されています。長年にわたって定期的に受検くださるリピーターの方も少なくありません。受検者さんの数も年々増加傾向にあります。

1日8名限定で丁寧に検査・診療

近年では人間ドックをメインに打ち出した施設や、専用のスペースで検査を行う医療機関も増えていますが、当院においては検査等を病院の診療のなかに組み込むかたちで実施しています。このため、当院の人間ドックは完全予約制・1日8名限定となっています。受検者さん専用の検査スペースや専任スタッフがないため、ホスピタリティの面でやや劣る部分は否めませんが、大阪鉄道病院が保有する最新鋭の機器と優秀なスタッフによる検査で信頼にお応えしています。また、他施設より受検者は少ないですが、検査からその日に出た結果のお話まで、お一人お一人と丁寧に向き合うことができるのではないかと思います。

「人間ドック」ミニ知識

日本での人間ドックは 1954（昭和 29）年に国立東京第一病院で行われたのが最初といわれています。「ドック」という言葉は、船を点検するドック（dock）に由来するといわれており、船が長い航海のあと点検・修理のためにドックに入るように、人間も定期的にドックに入る必要があるという考えから生まれた言葉とされます（日本人間ドック学会 HP より）。



院内各科・地域医療との連携

総合病院として、速やかな対処を要する所見があったとき等は、院内各科と速やかに連携がとれるのも大きなメリットです。精密検査が必要になった場合は、人間ドックの優先枠として院内各科の予約が取れるようになっています。

またかかりつけ医をお持ちの受検者さんに対しては、かかりつけ医の先生への結果報告と事後のご相談をおすすめしており、この点を地域連携の研修会などでも地域の先生方にお伝えしています。

人間ドックが大切な理由

健康を守るために大切なのは、自分自身の健康状態を正しく把握して、生活習慣の改善等による疾病予防や、早期発見から早期治療に結びつけることです。人間ドックで詳しい検査を多項目にわたって行うことは、がんや生活習慣病の早期発見や予防につながるようになります。

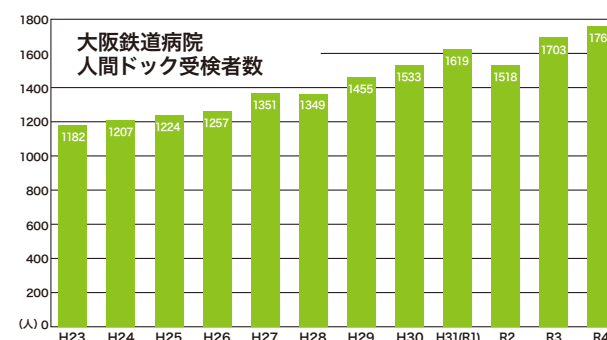
また、人間ドックは健康な人が受けるものというイメージがありますが、病気で治療中の方でも、人間ドックで多角的に検査を行うことで全く別の疾患が見つかることもあります。ぜひ受検をご検討ください。その際は、主治医へのご報告をされるようお願いいたします。

一方で、人間ドックで行う検査は拾い上げの要素が強いので、なにか症状があつて詳しく調べてほしいときや、すでに病名が確定していて、程度や重症度を調べてほしいという目的の検査には対応できないことが多くあります。こういった場合は人間ドックではなく該当の診療科を受診していただくのがベターです。

大阪鉄道病院は、人間ドック以外にも、JR 健保レディース健診や大阪市がん検診と特定健診などの健康診断を実施しています。これからも定期的な健康診断の大切さをお伝えして、みなさんの健康増進のお役に立ちたいと考えています。

健康診断を受けるときの注意

- ・正確に現状を把握するためにも、普段の生活のまま検査を受けることが大切です。ただし前日の暴飲暴食は避けましょう。
- ・病気治療中の人は事前に必ずお伝えください。特に投薬を受けている人はお薬手帳を持参するようにしてください。
- ・検査前日から指定される食事・飲水の制限は必ず守ること。食事が検査値に影響したり、観察条件が悪くなり診断に影響が出てしまうことがあります。



●受付



●待合室



人間ドックのスケジュール

●お申し込み（企画課医事で承ります）

実施日の決定（毎週月曜～金曜＜祭日を除く＞）

●当日

受付 8時15分～

検査着への着替え・問診票の記入後、各検査へ

【基本検査】

身体計測・血圧／検尿・検便／血液検査／心電図検査／肺機能検査／腹部超音波検査／胸部 X 線／選択検査＜胃部 X 線、胃内視鏡検査（経口または経鼻）よりどちらかを選択＞／聴力検査／視力・眼圧・眼底検査／医師総合判定

【オプション】

頭部 MRI 検査／胸部 CT 検査／骨塩定量／各種腫瘍マーカー／動脈硬化検査（血圧脈波検査・頸動脈エコー検査）／心エコー検査／女性検診（婦人科、乳がん）



昼食 検査終了次第（11時半頃～）

近隣レストランのランチ券をお渡しいたします



医師総合判定（12時半頃～）

検診担当部長との面談

終了は 13 時頃（乳がん検診のある方は 14 時頃）となります

お問合せ：
大阪鉄道病院 企画課医事
06-6628-2221（内線）2110～2112
祝日を除く月～金曜 9時～17時

新任医師のご紹介

本年 4 月 1 日付けで当院に赴任した医師と研修医をご紹介します。キャリア、専門ともに多岐にわたりますが、患者さんの信頼にしっかりと応えたいという思いは同じ。大阪鉄道病院の力強い連携のもと、それぞれの持ち場でよりよい医療の提供を目指してまいります。

消化器内科

医長 橋本 光 (はしもと ひかる)

大腸などの消化器の早期がんに対する内視鏡治療を専門にしつつ、消化器疾患全般の診療を行ってまいりました。その経験を生かし、患者さんお一人お一人と向き合い全人的な診療を心がけたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経内科

医長 木村 裕子 (きむら ひろこ)

脳神経内科領域の疾患は難病が多く、患者さんの生活背景にも目を向けた臨床が必要と考えています。丁寧な診療ができるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



緩和ケア内科

医長 金井 友宏 (かない ともひろ)

一般的には、医療者も患者さんも、病気を治すということを重視します。しかし最期の時をどう過ごすのか考え、できるだけ苦しくないように過ごすためのサポートをすることも、医師の大事な仕事と考えています。よろしくお願いいたします。

整形外科

医員 足立 拓矢 (あだち たくや)

患者さんに寄り添った医療が提供できるように日々精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

整形外科

医員 調子 智一 (ちょうし ともかず)

地域の方々に寄り添い、求められる医療の提供を目指して精進してまいります。なにとぞよろしくお願いいたします。

皮膚科

医師 奥 葵 (おく あおい)

皮膚のことでお困りの患者さんに寄り添い、納得して治療に取り組んでいただけるように心がけております。医療に貢献できるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

眼科

医員 元村 恵理 (もとむら えり)

患者さんとのコミュニケーションを大切に、お一人お一人に寄り添った医療を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



泌尿器科

医員 安田 麻衣子 (やすだ まいこ)

がん疾患や結石以外にも、さまざまな泌尿器科疾患の診療に取り組んでおります。患者さんお一人お一人に寄り添った医療を提供できるように、日々精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。



研修医

石川 俊文 (いしかわ としふみ)

「患者さんに親身になって寄り添う医師」を目指して研修させていただきます。よろしくお願いいたします。

研修医

田邊 悠記 (たなべ ゆき)

2年間研修させていただきます。生まれ育った大阪の医療に貢献できるよう、一生懸命がんばりたいと思います。積極的ないろいろな症例を学んで成長していきたいです。よろしくお願いいたします。



研修医

林 基 (はやし もとい)

大阪公立大学医学部附属病院より、1年間研修させていただきます。何事にも明るく元気に、フットワーク軽く取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



研修医

平田 眞裕子 (ひらた まゆこ)

患者さんのお話を聞く中で、気になることや心配なことをしっかり把握してお応えできるよう心がけています。至らぬ点多いと思いますが、一生懸命がんばりますのでよろしくお願いいたします。



研修医

森本 直斗 (もりもと なおと)

京都府立医科大学附属病院よりまいりました。出身は近畿大学です。まだまだ未熟な身でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よりよい医師になるため一生懸命がんばります。よろしくお願いいたします。



X線血管撮影装置の新機種を導入しました。



【X線血管撮影装置とは】

X線（放射線）と造影剤を使用して主要な血管（心臓あるいは下肢動脈など）を撮像し、血管の狭窄や閉塞を診断する検査装置です。検査に加え、狭心症や心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症での血管内治療を行うことができます。

より質の高い治療に貢献

放射線室のX線血管撮影装置が新しくなり、今年3月中旬より稼働を始めています。最新鋭の技術を結集した検査装置をご紹介します。

当院では、これまで使用していた装置が耐用年数を経過したため、新機種への入れ替えを実施しました。新機種はオランダに本社のあるフィリップス社の製品です。従来の機種と比較し、特に以下の点で優れています。

●被ばく量低減

X線を使用しますので被ばくは避けられませんが、従来の機種と比較して超低量の照射レベルで優れた画像が得られます。たとえば冷凍風船を使用する心房細動のカテーテル手術であれば、被ばく量が50%低下（62→31mGy）します（院内実績値）。

●画像を組み合わせ高難度の手技をサポート

CTなど他の検査の画像と組み合わせることで、より確実な視覚情報が得られます。血管内治療以外に、不整脈のカテーテル治療にも使用しますが、ここではCTで得られた心臓の3次元構造をX線撮影の血管情報に合わせてモニター表示させることにより、カテーテル位置の確認が容易になり、治療時のさらなる安全性の確保や時間短縮に貢献することが期待されます。



患者さんにより快適で安全な検査・治療を。

大型マルチモニターで画像もより鮮明で見やすく、操作性の高さを実感しています。被ばく量の低減など患者さんの体によりやさしく、これまで以上に質の高い検査・治療を、安全かつ迅速に提供できることは、私たちにとっても大きな喜びです。

循環器内科 部長 坂谷 知彦

栄養室 コラム

食中毒に注意～3原則でしっかり予防～

気温も湿度も高まる6月から9月は、細菌による食中毒が増える時期です。食材の保管や調理方法に注意し、しっかり予防しましょう。

【食中毒予防の3原則】

菌をつけない！

- 調理前・食事前は必ず手洗い
- 生の肉や魚は、生食で食べる果物やサラダ等から離して置く

＜同じまな板を使うのは危険！殺菌するか、別々のまな板に。他の調理器具にも気をつけて＞



菌を増やさない！

- 長時間、室温に放置しない
- ・生鮮食品は買い物から戻ったらすぐに冷蔵庫へ
- ・惣菜や調理した食品は速やかに食べる（持ち帰りや配達も注意）
- ・作り置き料理は小分けにして早く冷まして冷蔵庫へ
- ＜買い物には保冷バッグを使用するなどして、速やかに持ち帰ること＞



菌をやっつける！

- 中までしっかり加熱する
- ＜食材や料理の中心部分が75℃・1分以上が目安。特に肉や魚は注意＞
- ・電子レンジを使用するときは均一に加熱されるように
- ・温めなおすときも十分に加熱すること



まだまだある 要注意ポイント

上手に使えていますか？ 冷蔵庫のオキテ

- ・肉や魚は汁（ドリップ）が漏れないように袋に入れる
- ・冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下になるように調整
- ・冷凍庫内は詰め込みすぎず、7割程度にして冷気を循環させる



2日めのカレーが大好き？ 食べる前の心得

カレーに多いウェルシュ菌は、大鍋での加熱調理では死にません。しかし食中毒には多くの菌量が必要なので、増やさない工夫としっかりと再加熱することが効果的です。



夏のワクワクバーベキュー トングは2つ以上！

「新鮮な肉なら菌はない」ということはありません。食中毒の原因菌のひとつカンピロバクターは市販の肉から多く発見されています。しっかり加熱し、トングは生肉用と焼いたものを使い分けましょう。



Radiation Station

放射線部門

放射線治療のメカニズム

放射線治療は、手術治療、抗がん剤治療と並ぶがん治療の3本柱のひとつ。放射線を病巣部に照射することにより、がん細胞にダメージを与え、死滅させることを目指します。正常細胞にあまり影響を与えることなく、がん細胞だけに最大の効果を発揮できるよう照射法が確立されています。

●放射線治療の役割

根治治療から、症状をやわらげるための治療まで、病状により幅広い役割を担います。

●放射線治療の方法

がんの種類によって照射方法に違いがありますが、たいいてい場合は週に5日程度、4～40回程度に分けて照射を行います。



高エネルギー X 線放射線治療装置
(リニアック)

照射時間は1回5分程度、1～8週間、ほぼ毎日照射する

